



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

サウジアラビア：水分野における民営化計画

(7月9日付アラブニュース紙)

アブドゥラー国王は、サウジ国内で 30 以上の淡水化プラントを運営するサウジ淡水化公団 (SWCC) の民営化を進めるための執行計画および、排水処理プラントを民営化するための執行プログラムを承認した。

アル・フサイン水電力大臣の発言；

1. 今回のアブドゥラー国王による民営化計画の承認は、国王自身が、SWCC は国際水準に則り発展していくべきこと、紅海およびアラビア湾岸の淡水化プラントの管理・運営の発展を望んでいることの証である。サウジは世界最大の造水量を誇る国である。今回の取り組みは、人口増及び経済発展に伴い上昇している水需要に対応するためのものである。淡水化施設の民営化は水・電力分野における投資促進に繋がるであろう。
2. 排水処理プラントは、施設及び管理改善の観点から、徐々に National Water Company 傘下に移行されるであろう。
3. フサイン大臣は、SWCC は現在 5 つの企業を立ち上げることを含む、民営化のための下記 3 つの選択肢を検討しており、SWCC の役員がもっとも良い選択肢を決定し、最高経済会議 (SEC) に提案することになる。
 - (1) SWCC を共同持株会社に転換し、株式公開を行う
 - (2) SWCC の資産に民間部門が参画する
 - (3) 主要な淡水プラントを運営するために 5 つの独立した企業が立ち上げられる

【注】

人口増、経済成長等を背景にサウジでは水関連産業の改革が進んでいる。政府は民営化を通じて、当該分野の投資促進、効率的運用を進めたい考えで、今回の民営化は水分野におけるビジネスチャンス創出に繋がっており、多くの海外企業が関心を寄せている。